

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	岐 阜 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	海津町立 高須小学校					フロンティアチャー		牧 野 恵 忠	
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	2	2	2	3	2	16	29
児童数	85	62	71	77	75	81	6	457	

研究の概要

1. 研究主題

一人一人が分かる喜びを味わい、自ら学ぶ力を身に付けていく子
- 算数科を切り込み口として -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1年生～6年生・算数科
 ・子どもの生活体験の差による個人差が大きく、学習内容を理解・定着する力にも差があることから、特に個に応じたきめ細かな指導・援助が必要である。
 ・これまでの研究成果と子どもの実態を考えたとき、実施学年・教科を変えずに昨年度の課題をふまえた上で、研究をさらに深めることが大切であると考えた。
 ・算数科に焦点を絞り、教員が指導案検討や模擬授業などの研究の場を多くもち算数科の指導力を向上させることで、そこで培った指導力を他の教科でも生かすことができると考えた。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 一人一人が分かる喜びを味わい、自ら学ぶ力を身に付けていく子 - 算数科を切り込み口として -</p> <p>研究の見通し(仮説) ・等質の少人数指導やTTの形態で授業を進めることで、子ども一人一人が自分なりの考えをもち、多様な考えの仲間と共に学び合うことで、理解が深まり、本時のねらいをつかむことができる。 ・学びの過程を明らかにし、子どもの実態を踏まえた学習プリントを作成し、授業を進めることで学び方を身に付けることができる。 ・子どもの思考を類型化し、意図的な氏名や的確な指導・援助をすることによって一人一人の学力の定着をより確かなものに行うことができる。</p> <p>研究の内容・方法</p>					
	<table border="1"> <tr> <td> <p>【授業計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元指導計画の作成 机間指導表の作成 </td> <td> <p>【指導形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> TTや少人数指導での指導形態 </td> <td> <p>【研究推進の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 模擬授業による事前の授業検討会 研究会後の全研便りによる改善点確認 </td> </tr> <tr> <td> <p>【教材の開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習プリントの作成 補助教材の作成 </td> <td> <p>【学習環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習過程の掲示 単位時間ごとの学習内容の掲示 </td> <td></td> </tr> </table>	<p>【授業計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元指導計画の作成 机間指導表の作成 	<p>【指導形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> TTや少人数指導での指導形態 	<p>【研究推進の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 模擬授業による事前の授業検討会 研究会後の全研便りによる改善点確認 	<p>【教材の開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習プリントの作成 補助教材の作成 	<p>【学習環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習過程の掲示 単位時間ごとの学習内容の掲示
<p>【授業計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元指導計画の作成 机間指導表の作成 	<p>【指導形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> TTや少人数指導での指導形態 	<p>【研究推進の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 模擬授業による事前の授業検討会 研究会後の全研便りによる改善点確認 				
<p>【教材の開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習プリントの作成 補助教材の作成 	<p>【学習環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習過程の掲示 単位時間ごとの学習内容の掲示 					

平成
15
年度

テーマ

一人一人が分かる喜びを味わい、自ら学ぶ力を身に付けていく子
-算数科を切り込み口として-

研究の見通し(仮説)

- ・昨年度は、等質少数指導やTTの形態で授業を進めてきたが、個人差により応じていくには、等質少数指導やTTの形態だけでなく、習熟度別少数指導、単位時間の中にTTや習熟度別少数指導、コース別少数指導などを柔軟に取り入れることが必要である。
- ・本時のための事前の子ども理解を大切にし、個人追究の段階での願う子どもの姿と指導・援助や、全体追究の段階での練り上げる子どもの姿と指導・援助を明らかにすることで、一人一人の学習の成立をより確かなものにする事ができる。
- ・ノートにどう書けば本時のねらいを達成したと判断するのかを明らかにし、事前に、子どもに書いてほしい内容を書き込んだノートを教師自身が作成して授業に臨むことで、育てたい子どもの姿を意図した授業をすることができる。

研究の内容・方法

【授業計画】

単元指導計画の作成
机間指導表の作成

【学習環境】

1単位時間ごとの学習のまとめを掲示
基本的な学習過程の掲示
指導形態の工夫

【教材の開発】

学習ノートの作成
発展的・補充的な練習問題の作成

【指導形態】

子ども一人一人に応じたきめ細かな指導のための指導形態の工夫
- 実態とねらいに応じたTT・少数指導の在り方 -

【模擬授業】

教師による授業検討会の改善

平成
16
年度

テーマ

一人一人が分かる喜びを味わい、自ら学力を身に付けていく子
-算数科を切り込み口として-

研究の見通し(仮説)

- ・前年度に続き、より個人差に応じ一人一人に学習を成立させていくことを大切にする。等質少数指導やTTの形態だけでなく、習熟度別少数指導・単位時間の中にTTや習熟度別少数指導・コース別少数指導などを学習内容に応じて取り入れることで、より個人差に応じ、本時のねらいを実現する授業を行うことができるようにする。
- ・本時のための事前の子ども理解を大切にし、個人追究の段階での願う子どもの姿と指導・援助や、全体追究の段階での練り上げる子どもの姿と指導・援助を明らかにし、授業中の見届け・授業後の見届けを確実にを行い、本時や次時の授業により生かすことができるようにすることで、一人一人の学力の定着を確かなものにできる。
- ・前時の子どもの自己評価から、子どもの疑問点やもっと考えてみたい点等を把握し、それを生かしたねらいを設定し、その上でノートにどう書けば本時のねらいを達成したと判断するのかを明らかにする。その上で、事前に、子どもに書いてほしい内容を教師が書き込んだノートを作成して授業に臨むことで、育てたい子どもの姿を意図した授業をすることができる。

研究の内容・方法

【授業計画】

単元指導計画の作成
机間指導表の作成
・本時の展開と机間指導の融合

【学習環境】

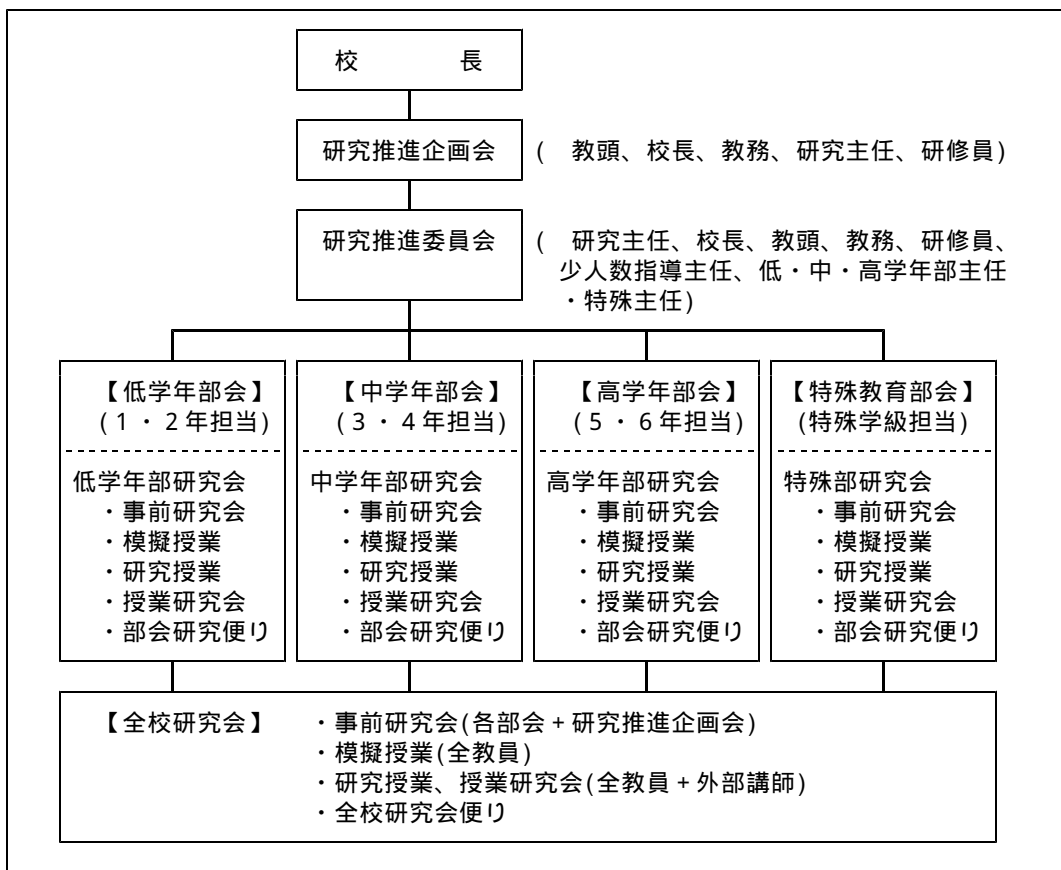
1単位時間ごとの学習のまとめを掲示
基本的な学習過程の掲示

【教材の開発】

学習ノートの作成
・望ましい学習ノートの工夫
発展的・補充的な

・机列表の工夫	指導形態の工夫 ・指導と評価の一体化の工夫	練習問題の作成
【指導形態】 子ども一人一人に応じたきめ細かな指導のための指導形態の工夫 - 実態とねらいに応じたTT・少人数指導の在り方 -		
【模擬授業】 教師による授業検討会の改善		

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- ・きめ細かな指導を実現するために、机間指導表に子どもの考えを予測し、それぞれの考えに対するきめ細かな指導・援助の内容・方法を明らかにすることで、個人追究・全体追究の段階での確かな指導・援助をすることができ、一人一人の子どもが自分なりの考えをもつことができるとともに、意図的な指名により話し合いを深めることができ、学力がより確かに定着してきた。
- ・学習内容や子どもの理解の様子を基に、TTでの指導や等質・習熟度別・コース別等の少人数指導の内容を工夫したり、単位時間の中にTTや少人数指導を組み合わせる工夫をしたりしたことで、一人一人の学習の成立の度合いが高まってきた。
- ・ねらいを明確にし評価の窓とするために、何を書けば本時のねらいを達成したことになるのかを学習ノートに複数の教師で事前に記入してみることで、学習の成立した姿やそのための指導・援助を共通理解して授業に臨むことができた。また、子どもが学び方を身に付け、自分の考えや仲間の考えを主体的に書くことができ、まとめや自己評価・ふり返りもしっかりと書くことができるように

- なってきた。
- ・子どもの自己評価や感想・疑問等を生かすことで、授業につながりが出てきている。
- 《昨年度6年生へのアンケート結果》
- ・算数の授業は、分かりますか。 よく分かる... 39% , 分かる... 59%
 - ・算数の授業は、楽しいですか。 大変楽しい... 42% , 楽しい... 53%
- (T Tや少人数指導に対しての子どもの声)
- すぐに質問に答えてもらえるので、よく分かりやる気が出る。
学習プリントで学習を進めるのでやるのが分かり、自分で学習を進めることができる。
表や数直線が書いてあって、すぐやるのが分かってしまい、つまらないときがある。
- 《今年度全校児童へのアンケート結果》
- ・算数の授業は、分かりますか。 よく分かる... 39% , 分かる... 44%
 - ・算数の授業は、楽しいですか。 大変楽しい... 28% , 楽しい... 49%
- (T Tや少人数指導に対しての子どもの声)
- 分かりやすい。 分からないときにすぐ教えてもらえる。
発表がたくさんできる。 人が少ないから緊張しない。
全員でやるほうが楽しい。 少人数だともう一方の子の意見が聞けない。
- (昨年度の6年生は、各学級28名。本年度については、学級の平均人数が、36名。)
- わかりやすさについては、どちらの調査でもよい結果が得られている。
仲間との学び合いを子どもにとってさらに意味のあるものにしていく必要がある。
昨年度と調査の母体が違うために、横並びにして比較することはできないが、意識調査の結果をしっかりと受け止め、さらに授業改善を進めていく。
- ・子ども理解を大切にしたいきめ細かな指導・援助が他教科でも見られるようになった。
- 例) 5年・6年の理科の授業の一部においてT Tを進め、実験や体験的活動において、一人一人の学習成立を願い、きめ細かな指導を行った。
- 例) 国語・社会・理科の単元の学習において、子どもの書き込みを意識した学習ノートを作成し、付けたい力を具体的にして授業に臨む教師の姿が生まれてきた。

2. 今後の課題

- ・指導案の作成において、本時の展開と机間指導表の融合を図る。
- ・授業中の指導・援助をよりスムーズに効率よく進め、きめ細かな指導をより確かにする机列表の工夫・改善を進める。
- ・子どもの実態や学習内容を踏まえ、よりきめ細かな指導を進めることができる指導形態の研究を進める。

学力等把握のための学校としての取組

児童の学力の評価

授業中や授業後の個の見届けを最も大切にしている。見届けをもとに、一人一人の学習状況に応じて、どのような展開で授業を行うのか、どのように個に働きかけるのか等を明確にするよう心がけている。

机間指導表や学習プリントの作成やプリントへの教師による事前の書き込みの際には、常に一人一人の学習状況とそれを高める手だてを意識している。

<授業中>

- ・子どもの態度・活動の姿の観察
- ・授業中の学習ノート(またはプリント)への書き込み内容
- ・机間指導表をもとにした一人一人の学習状況の把握
- ・全体追究での発言や意見の内容
- ・毎時間の終末に行う評価問題による評価

<授業後>

- ・学習ノートへの記入の様子
(個人追究での自分の考え、全体追究で分かったこと、まとめの内容)
- ・学習ノートの評価項目の自己評価と個人の反省の書き込み内容

<授業以外>

- ・単元テストによる評価

- ・教研式標準学力テスト
海津町教育委員会が予算を立てて行っている。町内5小学校，1中学校の全ての児童生徒を対象としている。
小学校では，1，2年生は国語，算数の2教科で，3年生から6年生は国語，算数，理科，社会の4教科で，全ての子どもを対象に実施している。
- 意識調査（10月）
一人一人の学習に対する意欲を把握をすることで，授業改善を図ろうと試みている。それぞれの内容について，4段階で評価すると共に，その理由を言葉で記載するようにすることで，より詳しく意識を把握するようにしている。
- *学習に関する意識調査
 - ・家庭学習の様子
 - ・コースに分かれての授業について
 - ・チーム・ティーチングでの授業について
- *少人数指導に関する意識調査
 - ・少人数指導での授業は、楽しいですか。
 - ・少人数指導での授業内容は、分かりますか。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

西濃地区協議会・学力向上フロンティアスクール公表会について
 日時 平成16年2月2日(月) 13:10～
 場所 海津町立高須小学校
 対象 西濃地区小・中学校・西濃地区市町村教育委員会
 目的 「確かな学力」の向上のための授業改善への取組を授業公開を中心に発表し、授業改善の実践の成果や課題を全体会・分科会で交流することで、取組の内容・方法や成果を西濃地区の小・中学校へ発信する。

研究成果普及のためのHPの作成、パンフレット作成等の実績
 本年度の研究実践(年間17回の研究授業)のまとめとして、その取組の変容の様子を次の点を中心にしてHP・リーフレットを作成し、配信・配付する。

- ・研究実践1(授業計画) ----- 机間指導表の工夫
- ・研究実践2(学習環境) ----- 指導形態の工夫
- ・研究実践3(教材の開発) ----- 学習ノートの工夫
- ・研究実践4(授業の検討・改善) -- 模擬授業での発問・板書等の検討・工夫

フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績予定

- ・地区内の研究会に参加し、取組の内容・方法を伝え、普及にあたる。
- ・富山県小矢部市教育委員会主催の教員研修会にて、取組の内容・方法・実践の成果と課題等を発表する。
- ・西濃地区の他の学力向上フロンティアスクールの公表会に参加し、自校の取組を伝える。
- ・本校の取組を郡内の小学校に継続的に発信している。

その成果として、研究会の場に2校の参加があり、それぞれの学校で、きめ細かな指導・援助を進めるために、本校で提案した机間指導表や授業の細案を作成し、研究を進め始めている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

[新規校・継続校] 15年度からの新規校 14年度からの継続校

[学校規模] 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級

[指導体制] 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

[研究教科] 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

[指導方法の工夫改善に関わる加配の有無] 有 無